

問題 3. V をベクトル空間, U_1, U_2, \dots, U_r を V の有限次元部分空間とする.

そのとき一般には

$$\dim(U_1 + \dots + U_r) \leq \dim U_1 + \dots + \dim U_r$$

であって, $U_1 + \dots + U_r$ が直和であるときまたそのときに限って, 等式

$$\dim(U_1 + \dots + U_r) = \dim U_1 + \dots + \dim U_r$$

が成り立つ. かつ, その場合, $i = 1, \dots, r$ のおのおのに対し, U_i の基底を $\alpha^{(i)} = \{u_1^{(i)}, \dots, u_{k_i}^{(i)}\}$ ($\dim U_i = k_i$) とすれば, $\alpha^{(1)}, \alpha^{(2)}, \dots, \alpha^{(r)}$ の元を並べて得られる $k_1 + k_2 + \dots + k_r$ 個の元の組

$$\alpha = \{u_1^{(1)}, \dots, u_{k_1}^{(1)}, u_1^{(2)}, \dots, u_{k_2}^{(2)}, \dots, u_1^{(r)}, \dots, u_{k_r}^{(r)}\}$$

は $U_1 \oplus \dots \oplus U_r$ の基底となる.

この命題の証明せよ.

(解答) U_1, U_2 は, V の有限次元部分空間なので,

$$\dim(U_1 + U_2) \leq \dim U_1 + \dim U_2$$

であり, $U_1 + U_2, U_3$ は, V の有限次元部分空間なので,

$$\dim((U_1 + U_2) + U_3) \leq \dim(U_1 + U_2) + \dim U_3$$

である. よって,

$$\dim(U_1 + U_2 + U_3) \leq \dim U_1 + \dim U_2 + \dim U_3$$

である. 以下, 同様にしていくと,

$$\dim(U_1 + \dots + U_r) \leq \dim U_1 + \dots + \dim U_r$$

が成り立つ.

和 $U_1 + \dots + U_r$ が直和

$$\iff \text{任意の } i \ (2 \leq i \leq r) \text{ に対して } (U_1 + \dots + U_{i-1}) \cap U_i = \{0\}$$

$$\iff \text{任意の } i \ (2 \leq i \leq r) \text{ に対して}$$

$$\dim(U_1 + \dots + U_{i-1}) + \dim U_i = \dim(U_1 + \dots + U_i)$$

$$\iff \dim(U_1 + \dots + U_r) = \dim U_1 + \dots + \dim U_r$$

任意の $z \in U_1 \oplus \dots \oplus U_r$ は,

$$z = u_1 + \dots + u_r, \quad u_i \in U_i \ (i = 1, \dots, r)$$

の形に一意的に表される. また, $u_i \in U_i$ は,

$$u_i = a_1^{(i)}u_1^{(i)} + \dots + a_{k_i}^{(i)}u_{k_i}^{(i)}$$

の形に一意的に表される. よって, $z \in U_1 \oplus \dots \oplus U_r$ は,

$$z = a_1^{(1)}u_1^{(1)} + \dots + a_{k_1}^{(1)}u_{k_1}^{(1)} + \dots + a_1^{(r)}u_1^{(r)} + \dots + a_{k_r}^{(r)}u_{k_r}^{(r)}$$

の形に一意的に表される. よって,

$$\alpha = \{u_1^{(1)}, \dots, u_{k_1}^{(1)}, u_1^{(2)}, \dots, u_{k_2}^{(2)}, \dots, u_1^{(r)}, \dots, u_{k_r}^{(r)}\}$$

は $U_1 \oplus \dots \oplus U_r$ の基底となることが示せた.

ポイント : U, W は, V の有限次元部分空間のとき,
 $\dim(U + W) \leq \dim U + \dim W$

U, W は, V の有限次元部分空間のとき,
 $U + W$ も V の有限次元部分空間である.

U, W は, V の有限次元部分空間で, $U \cap W = \{0\}$ のとき,
 $\dim(U + W) = \dim U + \dim W$

任意の i ($2 \leq i \leq r$) に対して, $\dim(U_1 + \cdots + U_{i-1}) + \dim U_i = \dim(U_1 + \cdots + U_i)$

$$\Leftrightarrow \begin{cases} \dim U_1 + \dim U_2 = \dim(U_1 + U_2) \\ \dim(U_1 + U_2) + \dim U_3 = \dim(U_1 + U_2 + U_3) \\ \cdots, \\ \dim(U_1 + \cdots + U_{r-1}) + \dim U_r = \dim(U_1 + \cdots + U_r) \end{cases}$$

$$\Leftrightarrow \dim(U_1 + \cdots + U_r) = \dim U_1 + \cdots + \dim U_r$$

任意の $z \in U_1 \oplus \cdots \oplus U_r$ は,
 $z = u_1 + \cdots + u_r, \quad u_i \in U_i$ ($i = 1, \cdots, r$) の形に一意的に表される.

U_i の基底を $\{u_1^{(i)}, \cdots, u_{k_i}^{(i)}\}$ とすれば, 任意の $u_i \in U_i$ は,
 $u_i = a_1^{(i)}u_1^{(i)} + \cdots + a_{k_i}^{(i)}u_{k_i}^{(i)}$ の形に一意的に表される.

任意の $z \in U$ ($\dim U = n$) に対し, v_1, \cdots, v_n の 1 次結合として,
 $z = a_1v_1 + \cdots + a_nv_n$ の形に一意的に表されるならば,
 $\{v_1, \cdots, v_n\}$ は, U の基底となる.